

ももかの がまの油 売り口上塾

MOMOKA'S Gama's Oil Sales Talk LESSON

Photographer: Aya Horiguchi, Writer: Shinnosuke Onuki, Hair&Make: kind
撮影協力: 筑波山がまの油売り口上研究会 (<http://members.icom.home.ne.jp/gamaken/>)

杏果が挑戦するのは大道芸の定番「がまの油売り口上」。
この道47年、筑波山がまの油売り口上研究会会長をつとめる林 正一先生が
「今でしょ!」ならぬ「がまでしょ!」とばかりに熱血指導!
「サテお立会い」で始まる路上で口上を披露しながらの
実演販売には“芸”の奥義がつまっていた!

筑波山妙薬

陣中膏

がまの油





苦手を克服したい!

私、「カエルに似てる」ってよく言われるけど、カエル自体は苦手なんです。だから、「がまの油売り口上」は気になって。調べてみたら滑舌をよくする効果もありそうで、苦手なものを一気に克服できるチャンスかなって。私にとって「がまの油売り口上」は一度は通らなきゃいけない道なんです!



「がまの油売り口上」とは?

がまの分泌液を混ぜた薬はいろんな傷に効くといわれていて、その薬の成り立ちや効果を独特の仕草を交えてテンポよく語りながら売っていたのが「がまの油売り口上」。江戸時代や明治時代は緑日で露天商が口上をしていたけど、今は大道芸として各地で披露されている。



これが「がまの油売り口上」装備だ!



がまの人形

がま蛙を知らない人のためにゴム製の人形を使って説明する。筑波ではホンモノのがま蛙を使うこともあるのだとか



がまの油

これがなくて始まらない! 傷薬として江戸時代から売られていた「がまの油」。これを売るための口上なのだ



ハマグリ

現在はプラスチック容器に入っているがまの油だが、江戸時代はハマグリの貝殻に入れて売っていたという



ハチマキ

なんとハチマキには「がま」の刺繍が!! このデザインは筑波山がまの油売り口上研究会・林会長によるもの



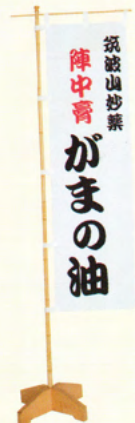
刀

刃の部分に仕掛けがあるのでお客さんに見られないように。現在は模造刀だが、江戸時代は竹光を使っていた



扇子

注意を引くために台を叩いたり、見物客を指したり、切った紙を桜吹雪のように扇いだり、いろいろと活用できる



台&旗

お客さんを呼び込むために重要な旗と台。がまカラーの緑がまぶしい! これならどんな場所でも人の視線を集める



半紙

普通の半紙であればOK (固い紙だと切りにくいので注意!). 光に透かすと見える繊維の目に沿って切りやすい



衣装

江戸時代は袖の着物で実演されていたそう。背中には家紋ならぬ、「がま紋」まで入れられていた!



1 まずは師匠のお手本!

杏果に口上を教えてくれるのは、筑波山がまの油売り口上研究会会長・林 正一先生。先生の一挙一動に杏果は「じゅじゅ!」ならぬ「ゲコ!ゲコ!」とばかりに驚きまくり。「がまちゃん」への道はまだ遠い?



ギャー!!!!

刀で腕を切る演技に絶叫するなど、杏果らしいリアクションが爆笑! がまの油をつけて腕の傷が治ると、杏果は「なんで? なんで?」と不思議がる

林先生が取り出したゴム製のカエルに大絶叫の杏果。スタジオ中に悲鳴が響き、逃げ惑う。こんなことで口上ができるのか!?



ももかの「がまの油売り口上」メモ

(※口上一部抜粋)

これを名付けて

ヒキ面相は「四六のがま」だ。



ここで声を大きく！「ヒキ面相」を「イケメンそう」って噴まないように！

前足の指が四本で、

後ろ足の指が六本



前足が四本なのは進化したからなんだって！知らなかった!!

四六五六は

どどこで見分ける。



普段使わない言葉だから何回か復唱してスラスラ言うように！

サテ お立ち会ひ、

手前のはこれ「四六のがま」



大事な第一声で「お立ち会ひ」を「お立ち台」って読んじゃった！

2 口上を讀んでみよう

聞き慣れない言葉がいっぱいの「がまの油売り口上」。まずは林先生のとに続いて練習することに。テンポよく読み、お客さんに考える隙を与えずにがまの油を買わせるのだ！



「最初は先生の口上に圧倒されたし、言葉の意味もわからなかったけど、読んでいくうちに入り込んでいきました！」と口上を理解しつつある杏果



順調に口上をマスター……と思いきや、杏果は口上に欠かせない「がま」を触れない!!「見ないと大丈夫かも……」と恐る恐る触れようとするも、「やっぱリムリ——ッ!!」



3 動きをつけてみよう!

刀で紙を2枚、4枚、8枚、16枚と切っていく動きを実践！キャベツの千切りをマスターした杏果とはいえ、刀を使うのは難しそう。そこで、紙が厚くなったら手前の紙だけを切るという裏技を伝授された!



裏技をマスターしてニマリの杏果。「切った紙は「倍々になる」から縁起がいいんだって！お財布に切った紙を入れたらお金がいっぱい貯まるかもしれない!」



陣中膏がまの油

ももかの油売り 口上披露!!

先生の優しさで、持てない「がま」は小さな旗で代用することに。ホッと胸をなでおろし、口上と動きを合わせて披露! さあ、さあ、お立会い! ももかの油売りが始まるよ!!

サテ
お立ち会い!



落花の吹雪がふりかすー

嵐山では



切ってお目にかかけよう



一枚の紙があるから

一枚の紙が二枚、
二枚の紙が四枚、
四枚の紙が八枚……



抑揚の効いた口上とともに華麗な刀さばきで紙を切っていく杏果。最後は紙吹雪がヒラヒラと踊る! 無事に口上を終えると、先生に駆け寄って御礼の握手!!

また一つ、
私の知らない
素晴らしい芸を
実際に見て、聞いて
学べて、貴重な経験が
出来ました。

口上のなかで声の強弱をつけていくことが勉強になりました! 強弱って、歌でもダンスでもお芝居でも共通する大切なことだと思うんです。最初はちょっと恥ずかしかったけど、実践していくうちにそんな意識がなくなっていたので、口上は度胸をつけるのにもいいのかなって思いました!

